

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院血液内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みにになり、ご自身やご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自身やご家族の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

2009年6月30日～2017年6月30日の間に、虎の門病院血液内科で急性リンパ性白血病に対する同種造血幹細胞移植を受けられた20歳以上の方

【研究課題名】

同種移植後慢性閉塞性呼吸障害の発症危険因子

【研究の目的・背景】

移植後早期の呼吸器ウイルス感染症（インフルエンザA型、B型、アデノウイルス、パラインフルエンザ3型、RSウイルス）は発症頻度も高く、治療法が確立されていない、時として重篤化する合併症です。また、ウイルス感染の急性期を乗り切ったあとも閉塞性呼吸機能障害（呼吸が吐き出しにくくなる障害）が後遺症として残ることもあります。その頻度や危険因子はわかっていません。今回は移植後の呼吸器ウイルス感染の発症の危険因子、予後、および呼吸器ウイルス感染が慢性期の呼吸機能へ与える影響について解析し、将来の治療成績向上の足掛かりとなる知見を見出すことが目的です。

【研究のために診療情報を解析研究する期間】

2019年12月24日 ～ 2024年3月31日

【単独／共同研究の別】

虎の門病院単独研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては、特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は虎の門病院 血液内科 景山康生のもと研究終了後、学会・学術論文等で研究結果を開示したのち5年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

患者基本情報（年齢、性別、原疾患、移植源、移植回数、HLA 適合度、移植前処置、転帰など）、急性及び慢性 GVHD、免疫抑制剤及びステロイドの投与状況（種類、投与量及び投与期間）、呼吸器ウイルス感染症の有無、ウイルスの種類、移植後呼吸機能検査結果。

【虎の門病院における研究責任者】

虎の門病院 血液内科 内田直之

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報・検体（試料）の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身やご家族の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2020年3月31日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 血液内科 景山康生

電話 03-3588-1111(代表)